

大草谷津田いきもの里自然観察会

クモの網の観察

日時：2010年10月18日（日） 天候：くもり
参加者：12名（大人10名 子供2名）
担当指導員：太田慶子、和仁道大

文： 和仁道大(千葉市)
イラスト：太田慶子(千葉市)

クモの網の観察に不可欠な道具として霧吹きが使われるが、太田さんが100円ショップで売っている化粧液の詰め替えスプレーボトルが便利だと披露した。なるほどフタがあり形もスマートでポケットにも入るスグレモノである。以下この日に見られたクモの網を形状別に紹介する。

・**蹄型円網**:この時期どこにでも見られる網で、網の中央に大きなジョロウグモのメスが鎮座し、隅っこに小さなオスがいた。入口広場の林縁部にたくさん見られたが、三重網が完全な形で残っているのは意外と少なかった。縦糸、横糸、枠糸に手で触れてもらい、どの糸が粘るのか確認してもらった。田んぼの脇の斜面林ではジョロウグモの網に仁丹のような銀色の粒がついていた。これがシロカネイソウロウグモで、ルーペで見ないとグモと判別できない。

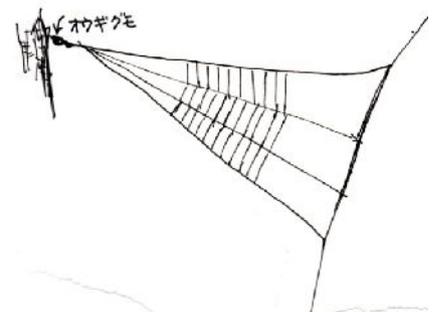
・**垂直円網**:入口広場からめじろんばまでの暗い小道で、地上10cm位の高さの所に、巻いた枯葉が糸にぶら下がっていた。スプレーをかけると枯葉の周囲に小さな円網が浮かび上がった。枯葉の中には赤っぽいハツリグモが隠れていた。

自噴井戸の近くの田んぼに下りると、ナガコガネグモの網がいくつか見られた。ナガコガネグモの網の中央部は「かくれ帯」と呼ばれる白いギザギザ模様があった。網にバツタがかかると、クモは即座にバツタを糸でグルグル巻きにして、バツタは包帯で巻かれたようになってしまった。

ハンノキ林のそばで円網の中央に細長いゴミをつけたゴミグモの網を見つけた。クモはそのゴミの中に隠れているのだが、どこにいるのかまったく見えなかった。

・**水平円網**:自噴井戸の近くの斜面林側にオオシロカネグモの水平円網がいくつも見られた。この網の中央部には、こしきと呼ばれる丸い穴があって、この穴の周囲から縦糸が放射状に広がっていた。

・**扇網**:めじろんばの手前の草地に扇状の網を見つけた。網は4本の縦糸と10本位の横糸からできていた。(右絵参照)扇の要の所にオウギグモが待機していた。獲物がくると脚でたぐっていた糸をゆるめて獲物をからめ捕るといわれている。オウギグモは比較的珍しいクモでこの地域で確認されたのはこの日一番の収穫である。



・**棚網**:入口広場の生垣にコクサグモの棚網が見られた。スプレーをかけると白いハンカチを広げたようになった。主のコクサグモは奥に管状の住居を造って隠れていた。

・**条網(スジアミ)**:林縁部に2cm位の松葉が糸に引っ掛かったようなものが見つかった。よく見るとオナガグモだが、参加者はクモに手を触れて脚が動き出してやっとクモだと納得した。このオナガグモの網が条網といわれ1-2本の糸を横に引いただけのもので網とは言い難い。目が慣れてくると、この周辺にはオナガグモが多数見られた。

・**不規則網**:入口広場の掲示板の下側を覗くと不規則網があり、オオヒメグモとその卵囊が見つかった。この不規則網にスプレーをかけると、不規則でも美しく見えた。

網を張らない徘徊性のクモでは、きれいなハナグモがアザミの花で獲物を待っていたし、ススキの葉にヤハズハエトリが隠れていた。このようにいろいろなクモとその網が観察されたので、じっくり観察すると、1時間半では時間が足りない感じだった。